

8月21日～26日、本校の生徒6名がカンボジアで研修を行います。滞在中は、カンボジアで活躍する日本人や現地の青少年との交流を通して「途上で活躍する女性リーダー」についての研究を深めます。またアジアの一員として、カンボジアや東南アジアの歴史と文化について学習し、日本人としての自らの立場について考える機会にしたいと思います。

8月21日(月) カンボジア・プノンペンに到着しました



【プノンペンに到着!】

プノンペンのシンボル“ヴァタナック・キャピタルタワー”を背景にパチリ。

成田空港からプノンペンへ

8月21日、成田空港を出発してプノンペン国際空港に到着しました。昨年9月から成田とプノンペンの直行便も就航し、日本にとってカンボジアがぐっと身近な国になっていく可能性を感じました。生徒たちは出発前の緊張も和らぎ、とても元気です!

カンボジアの歴史を物語る跡地への訪問



【チュンエク大量虐殺センターにて】

カンボジアの歴史を学ぶ

到着翌日の午前中は、チュンエク大量虐殺センターとトゥール・スレン虐殺犯罪博物館を見学し、カンボジア内戦やポル・ポト時代の歴史について学びました。ポル・ポト政権下で行われた虐殺の犠牲者の数は正確には分かっていませんが、100万人以上とも言われています。

想像を絶する残虐さを知るにつれて、生徒の顔からは笑顔が消えていきました。生存者の高齢男性のお話を聞き、涙を流す姿もみられました。

事前に文献で勉強し知識は得ていたものの、想像していたものとは大きく違い、「百聞は一見にしかず」を実感したようです。

目をそむけたくくなるような悲惨な歴史ですが、カンボジアを知るためには避けて通れない史跡です。大きなショックを受けながらも、真剣に展示と向き合おうとする生徒たちの姿が見られました。



■ ■ ■ カンボジアで活躍する日本人を訪ねて



[JICA にて]



■ JICA カンボジア事務所への訪問

午後からは JICA カンボジア事務所を訪問し、女性スタッフの方からお話を伺いました。カンボジアの GDP 成長率は 7.43% (2013 年) を記録し、順調な経済成長を背景に日系企業の進出も加速しています。JICA では、経済特別区整備等の“ハード面”と産業人材育成等の“ソフト面”から、包括的な支援を行っているそうです。また経済基盤の強化だけでなく、保健医療・教育・法制度整備等にも力を入れているとのこと。カンボジアの今、そして未来に向けた取り組みに興味を持った生徒たちは、身を乗り出し積極的に質問していました。

■ 倉田ペッパーへの訪問

JICA カンボジア事務所を後にしてから、カンボジアで胡椒の会社を立ちあげた倉田浩伸さんを訪問しました。中世から 60 年代まで「世界一おいしい」と言われていたカンボジアの胡椒は、70 年代半ばに起こった内戦で生産量が激減してしまいました。倉田さんは、カンボジアの胡椒がもう一度「世界一」と呼ばれることを目指して、自然農薬・自然肥料を使った伝統的な農法にこだわった生産を行っています。

この日は大幅に予定を延長して、胡椒のことだけでなく、アンコールワットの役割やご自分の生き立ちと生き方についても語っていただきました。倉田さんの情熱は、生徒たちの心にもまっすぐに届いたようです。

研修 2 日目は、カンボジアの歴史の暗い面を肌で感じて始まりましたが、午後には、発展してゆくカンボジアの現在の姿を知り、それを支える日本人たちに力をもらいました。明日以降は、カンボジアの高校生との交流会や現地で活躍する日本人女性の起業家の方たちへの訪問等が続きます。次は、カンボジアのどのような一面を知ることができるでしょうか。新たな出会いを、皆とても楽しみにしています。



[倉田ペッパーにて]



【Restaurant ROMDENG でディナー】
ストリートチルドレンの社会復帰活動を行う団体が経営するレストランでクメール料理に舌つづみ。メニューには食用蟻の入った炒め物も！